「未開拓」との出会いのために　～外国語の学習を通じて～

山口大学教育学部附属山口小学校　教諭　　寺内　　健

１　はじめに

子どもたちが将来、「見たこともない物や景色」「食べたことのない食べ物」「話したことのない人々」のような、自分にとっての“未開拓”に出会うために欠かせないツールとなるのが、外国語である。子どもたちが、目標を達成したり、何かを成し遂げたりする経験を外国語の授業の中で積み重ねていくことはできないだろうか。それらの経験が、将来、外国語をツールとして、“未開拓”に自ら足を踏み入れ、自分の住む世界を広げていこうとする子どもを育むことにつながると考えた。そこで、二つのポイントで授業づくりを進めた。

（1）子どもとともに単元を創る

英語を学ぶことが目的ではなく、英語を使って何をしたいのかを子どもと教師で共有していくことで、子どもの思いを大切にした、主体的な外国語の授業づくりが可能になると考えた。

（2）子ども同士で、振り返りを共有する

単元の終末に、学習のプロセスを振り返ることで、外国語を通じてやってみたいことがさらに増えたり、課題を一つひとつ解決してきた自分に自信がもつことができたりすると考えた。

単元：　「Cool！　Yamaguchi！～おすすめの場所を紹介しよう～」

本単元では、総合的な学習の時間の課題の解決方法の一つとして、英語を学習してきた。扱うのは、『We can!2』Unit2「Welcome to Japan.」と Unit4「I like my town.」である。まずは、「今まで学習してきた英語を使ってみよう」と教師から子どもに投げかけ、外国の方と交流してみることからスタートした。山口大学の留学生との交流（1回目）からもった思いと教師の想定のもと、子どもは学習を展開していった。以下、二つのポイントで学習の実際を述べる。

２　学習の実際

（1）子どもと共に単元を創る　ここからは、学習の過程を、見取った子どもの思いで示し、紹介する。

（※太い下線が外国語活動。「Ｅさん」：３回の交流で関わってきた外国の方。）

１　外国の方々との交流会をすることを知る

留学生と交流するのか。自分たちがしている遊びや日本の文化を紹介できるよう英語を学習しよう。

２　日本の文化を紹介する表現を学習する　【４時間】

「『We can!2』Unit2「Welcome to Japan.」で、食べ物や遊び、それらについての感想を伝える語彙や表現を学習するのだね。「I have〇〇. It’s～.」で、紹介できそうだよ。交流会では習ってきた英語を使ってみよう。でも、上手に使えるかな。

３　山口大学の留学生や国際交流員の方々と交流会をする

日本の文化であるお手玉や、自分たちがよく遊んでいるコマのおもちゃで、一緒に遊んで楽しかったよ。「I have ○○　It's ～.」を使って会話ができたよ。Ｅさんは、山口市のいいところをもっと知りたいのか。次の交流では、山口市のよさを紹介したいな。

「好きな日本の文化」を
伝え合う子ども

４　山口市のおすすめスポットの紹介の仕方を話し合う

山口市のいいところを紹介するのだったら、自分たちが本当に「いい」と思ったところを紹介したいな。学校から歩いて行ける名所はいくつかあるね。一の坂川はどうかな。たくさんのお店や公園もあるし、歩いたら日本の雰囲気を感じられるよ。でも、自分たちがよさをもっと知らないと紹介できないな。実際に行ってみよう。

一の坂川にあるお店を見て廻る子ども

５　一の坂川に行って、よさを感じる

川の水が気持ちいいね。いろいろな種類のラムネ、醤油　アイスクリーム、コロッケなど美味しそうなものが売っているお店があるよ。噴水で水遊びできる公園もあるね。この場所を教室で紹介するより、Ｅさんと一緒に来ることができたら、Ｅさんにその場で、よさを感じてもらえるのではないかな。Ｅさんの思い出にも残ると思うよ。持ってきたタブレットで写真や動画を撮ろう。私たちが紹介した場所の中からどこに
行きたいか選んでもらおう。

川に入ったり動画を撮影したりする
子ども

６　一の坂川のよさを紹介する英語を学ぶ　【５時間】

Ｅさんに、一の坂川に興味をもってもらえるように、がんばるよ。「We have Ichinosakagawa. You can enjoy eating Shouyu icecream. It's delicious. 」よし、練習できたよ。どうやって紹介すればよいだろう。練習した英語を、この動画を見せるときに、英語を使えば、よりよさが伝わると思うよ。練習してみるよ。もっとよくなったね。動画や写真に合わせて英語を言えばより伝わりやすいね。Ｅさんは、どこの、どんなものに興味をもってくれるかな。

場所に合わせて表現を
考えるＫ児のグループ

７　Ｅさんに一の坂川のよさを紹介する

「We have Ichinosakagawa. You can enjoy eating Shouyu icecream. It's delicious.　You can drink Ramune. It's sweet and delicious.」練習通り、写真や動画を見せながら伝えられたよ。いくつか紹介した中で、Ｅさんは、「I want to drink Ramune.」と言っているよ。何種類もあるラムネに興味をもってくれたね。次は醤油アイスとラムネが売っている醤油屋さんに、Ｅさんを連れていきたいな。でも、Ｅさんは、私たちがリアクションを返しても、英語が通じているかどうか不安なのだって。もっと安心して話をしてもらいたいな。どうすればよいのだろう。違うリアクションの仕方があるのかな。英語が通じる回数は増えると安心するかもしれないよ。場面を想像しながら、交流で使える英語を増やそう。

Ｅさんに紹介するＫ児のグループ

８　３回目の交流

※　猛暑で、急遽中止に

山口市の他の場所の紹介や、まだやっていない日本の遊びをしよう。Ｅさんは、一の坂川に行けなくて残念がっているね。今日は、Ｅさんの国の遊びも一緒にやってみたいから、教えてもらおう。一の坂川には行かなかったけれど、室内でできることを楽しめたね。前回よりも英語が聞き取れたし、英語で質問もできたよ。

３回目の交流をするＫ児のグループ

９　学習を振り返る

最初は、外国の人と交流するのが不安だったけれど、練習をした英語を使って、交流することができたね。練習した英語が通じてすごくうれしかったよ。いろいろな遊びを考えたり、話したいことを英語で何て言うのか調べたりするのが楽しかったね。Ｅさんはすごく優しくて、２回目の交流からは名前を覚えてくれていてうれしかったよ。３回目は、「会いたかった」と言ってくれたのがうれしかったね。また、Ｅさんと交流をしたいな。

このように、「一の坂川の魅力を伝えるにはどうしたらよいか」「Ｅさんに楽しんでもらうためには何が必要か」という総合的な学習の時間の課題の解決方法の一つとして英語を学習してきた。子どもの思いに寄り添い子どもとともに創る単元構成が、子どもが主体的に外国語を学ぶことにつながったのである。

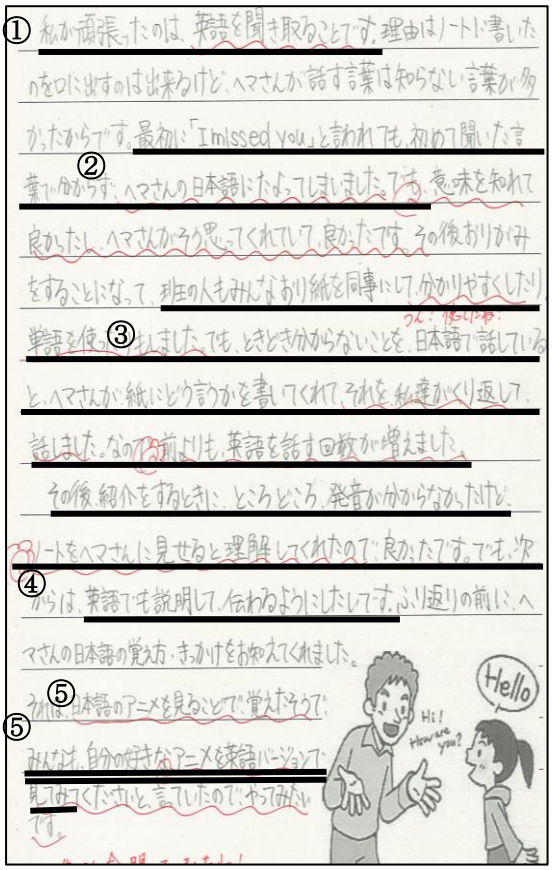
（２）　子ども同士で振り返りを共有すること

Ｋ児の振り返りを単元の終末に全体へ紹介し、Ｋ児がもった思いを共有した。その際、子どもたちには、「Ｋさんのいいところはどこ？」と投げかけた。そうすると、子どもたちは、①～⑤までの文章に着目し、自分の思いとＫ児の振り返りとを比べて、改めて交流について、思いをもった。

仲間と振り返りをするＫ児

K児が書いた振り返りを左、それに対する、他の子どもが発言した思いを右の□の中に示す。

K児の振り返り



K児の振り返りからもった他の子どもの思い

①「目標をもってKさんは取り組んでいてすごいです」「私も目標をもって学習したいです」

②「会いたかったよと言ってくれるくらい楽しい交流ができたことが分かりました」「ぼくも、３回の交流をしてどんな人なのか分かりました」

③「折り紙をしながら、調べた英語を使っている工夫がすごいなと思いました」「英語を使う回数が増えたのは、ヘマさんに教えてもらった英語をKさんが一生懸命使おうとしたからだと思います」

④「英語の発音の仕方が分からない時には、文字を見せることも有効なのだなと思いました」「私も、英語が分からない時には、ジェスチャーをしたり絵を描いたりして伝えられました」

⑤「次にしたいことを決めていてすごいなと思いました」「もっと英語を使いたいと私も思います」「自分の好きなことで英語の勉強ができるなんて初めて知りました」

このように、①～⑤のK児の思いを他の子どもが自分の思いと比べ、共感したり自分にはない思いに気付いたりしたのである。K児は、①～⑤のような思いをもったといえる。

①目標をもって学習したこと
②人と人とが英語を通してつながることができた喜びを感じていること
③④伝えたいという思いを基に、伝える方法を試行錯誤しながら活動していること
⑤さらに学習に対する意欲を高めていること

このような、振り返りを共有する場では、K児だけでなく、K児の思いのよさに気付けた子どもたちも価値付けることができた。振り返りの価値付け方法は、「教師が」コメントを書いて返すことや、振り返りのどの部分がよいのかを、「教師が」他の子どもたちへ紹介することなどが考えられる。しかし、ここで大切にしたいのが、「教師が」ではなく、「子ども同士で」価値付け合うことである。一人の感想を基に、外国語を学ぶよさについて子ども同士で共有　していくことで、仲

英語を使って学校を案内する子ども

間の思いと自分の思いとを比べ、新たな考えが生まれたり、素直に仲間のよさに気付き、互いを認め合える人間関係を作ったりすることにつながると考えている。

３　おわりに

外国語の学習に、これから求められるのは、英語を上手に話したり、相手が話すことを正確に聞き取ったりすることだけではなく、目の前の問題を自分なりに解決をして、自己実現しようとする人間をいかに育てていくかであると考える。そこで大切なのが、外国語の学習を通じて、自分のがんばりや思いが実を結ぶ経験である。そのような経験を何度も積み重ねることが目の前の問題の解決の見通しや解決への自信をもつことにつながるのではないかと考える。

３回の交流を終えた子どもたち

そのために、教師は、子ども一人一人の成長の見取り、価値付け、子ども同士で互いの成長の喜ぶことのできる場を大切にしたい。些細なことではあるかもしれないが、これらを丁寧に行うことは、他教科，領域の学習と同じである。これからも、外国語の学習が、子どもたちの“未開拓”に出会える瞬間につながることを信じて、研究を重ねていきたい。